

ごあいさつ

多摩の風景は古来より美術や文学等の作品中に採り上げられてきました。万葉歌に「多麻川に曝^{たまがわ}す手作^{さら}さらさらに何そこの見^{かな}のここだ愛しき」(巻第十四、東歌 3373)と詠われた多摩川は、歌枕「六玉川」のひとつとして広く知られ、邦楽曲や短歌、小説、絵画などの題材になりました。浮世絵では、菊川英山や葛飾北斎、歌川広重など多くの浮世絵師が多様な切り口から多摩の風景を描いています。

緑豊かで地形の変化に富んだ美しい自然環境のみならず、「多摩」と呼ばれる地域がもつ文化の独自性が、人びとを惹きつけてきたのでしょう。

本展「多摩の人・多摩の風景」は、郷土誌『多摩のあゆみ』(たましん地域文化財団発行、歴史資料室編)の創刊40周年を記念し、多彩な作品とともに多摩の歩みを振り返ります。

多摩に生きる人びとの息遣い、また多摩の人びとがつくってきた風景をゆっくりと感得いただければ幸いです。

2015年9月

たましん歴史・美術館